

帯広市社会科教育研究会

《平成 23 年度下半期の活動》

今年度下半期も 11 月の全道大会(根室大会)での提言作りや、12 月の授業研究会を通し、「教師力」の向上を図るとともに、懇親会等を通し会員相互の親睦を深めてきた。

(1) 北海道社会科教育研究大会 根室大会 11 月 4 日(金)

今年度帯広地区からは 4 名の会員が参加しました。昨年度からの 3 カ年研究の継続研究主題『「今」を知り、北の未来に参画する子の育成』の研究テーマに、根室地区ならではの教材化を通して迫る研究会に参加させていただき多くの刺激を受けました。帯広地区からは啓北小学校の島拓史教諭の実践を提言させていただき、全道の先生方から多くの示唆をいただきました。



(2) 授業研究会 3 年「調べようものをつくる仕事」12 月 19 日(月) 帯広市立緑丘小学校 越祐太教諭 小学 3 年生の「調べよう物をつくる仕事」の単元からの授業で、10 余名の参観者があった。授業



は「カルビーの工場はなぜ帯広にあるのだろうか」という課題から、カルビー帯広工場の立地条件について学習し、ジャガイモをつくる仕事や、それらを加工する産業についての理解を深めることを通して、十勝帯広の風土や変貌しつつある社会にまで児童の興味を広げる学習となった。

帯広では社会科の学習を通して児童の納得を生み「学び甲斐」を感じさせることを重点に置いてきた。その為に本時でも発言や思考の根拠となる 2 つの資料を中心に課題に迫っていった。その 2 つの資料から児童は「十勝帯広はじゃがいもの一大生産地であること」「新鮮な材料を原料として成り立つ加工業」について学び、「高速道路等の含めた優れた立地」から十勝の優位性についても理解を深めることができた。

事後研では「課題の切実感をより高めること」や「板書の構造化」等課題となることも多岐にわたって出され有意義な時間となった。



(3) 新年度に向けて

今年度は、諸事情により冬季の授業研究会が主だった活動となった。新年度については、より多くの授業研究の機会を設け、会員の拡充を図りたい。

